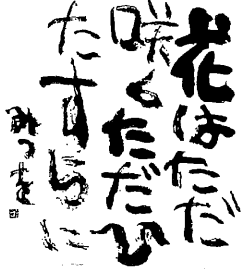


さくら第468号

平成30年12月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7: TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『多様に变化する紅葉・黄葉』

11月初旬から中旬にかけて山々は紅葉し、もみじの紅とイチョウの黄色い葉がとても美しく映えるなかに、針葉樹である杉や松の葉の緑色が力強く感じられます。

もみじと言えば京都のお寺が有名であり、この時期になれば市内の道路は大渋滞です。イチョウの木は比較的少ないようですが、大阪の御堂筋の街路樹はイチョウ並木として有名です。イチョウの実である銀杏(ギンナン)は落ちると臭いにおいがするので街路樹には実のない雄(オス)株を植えるようです。

イチョウの木は火に強い性質があるので江戸時代には火除け地に多く植えられました。木目が美しく油分をふくみ水はけもよく、ゆがみが出にくい性質であり、材料も均一で加工に優れ、将棋板、家具、建具などに多く使われます。台所で使うイチョウのまな板は値段も高いですが、包丁の刃でついたキズもすぐに元通りになることから長年使うことができます。

「ふくい健康の森」へ足を運びました。こは、第73回福井しあわせ元気国体(9月29日(土)～10月9日(火))と、第18回全国障害者スポーツ大会福井しあわせ元気大会(10月13日(土)～10月15日(月))が開催された福井運動公園から西へ車で10分ほど走った小高い丘にあります。

公園の中に道路があり、左右のイチョウ並木は見事な色づきで、手で葉を触ればひんやりした冷たさの中に柔らかさがあり、朝の湿り気で小さな水玉も見られます。

芝生の上を元気な声を出しながら走り回る子どもを笑顔でじっと見守る若い夫婦や、ステッキを突きながらゆっくり歩く年配男性、グループで来ている男女の若者数名から話し声とともに笑い声が耳に入ります。

歩道橋を渡ると左右にもイチョウ並木が続く、その奥には管理事務所などの建物があり、一段下りたところのテニス場では職場のサークルなのか数十人の男女がボールを打ち合うなど和やかな光景が見られます。

歩道橋から見る風景はまた違う印象があります。イチョウ並木の中にはまだ樹齢が少なく手首ほどの太さもあれば、大人の身体ほどの幹周りもあります。長年の風雪、酷暑、寒暖差の厳しい自然環境のなかにあって成長を続ける姿は人の成長と同じです。1年、10年、数十年と樹齢を増すことで鮮やかな黄色の葉を増やしながら大木へと育ちます。

イチョウやモミジなどの広葉樹は春・夏・秋・冬、朝・昼・晩とその季節や時間に即した表情を見せて、私たちを楽しませてくれます。夜のライトアップは特にきれいで荘厳さがあります。

これらの花は、四季のうつろいのなかで色々な変化をします。私もこの花のように日々の生活を多用に変化させて楽しく過ごしたいです。

イチョウの葉は冬を迎える前に、それまでに蓄えた栄養分を無くさないよう幹にため込んでから落ちていきます。寒い冬を乗り越え、春を迎えるために枝は切り落とされます。

私たちも成長の妨げとなるような事はやめて、前進しましょう。イチョウの木は多様な使われ方があるように、自分自身を学習や運動、いろんな活動のなかで成長させましょう。そして家族や友人、周りの人たちを喜ばし、時には動をもたらずようがんばりましょう。

松や杉の葉はいつも変わらぬ色であり、太い幹は健康で力強い逞しさを感じます。心と身体を強く保ちながらムダ、ムラ、ムリを省くなかに自分の良さを見つけることができます。脳力、能力を発揮するカギはあなた次第です